

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年8月6日

1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・2歳児「カブトムシの観察」

<テーマ設定理由>

子ども達は、虫に興味を持ち始めて春から園庭で虫探しを楽しむようになりました。アリやダンゴムシなど、園庭の隅やプランターの下を探したり、人工芝をめくって覗き込んで探しています。バッタやかたつむりも他のクラスで飼い始めたので興味をもっていました。今回は、カブトムシの成虫に出会うことで探索活動につなげていきたいと思えます。

2. 活動スケジュール

- ・8月4日カブトムシをいただき、園で飼い始める。
- ・8月5日2歳児クラスで飼い始める。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・飼育ケース
- ・餌（すいか）
- ・テーブル

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・午前のおやつが終わったころ、水遊びを始める前に子どもを集めてカブトムシを見せる。
- ・子ども達は、とても興味をもって飼育ケースの周りに集まってくる。」
- ・はじめは保育士が手にもっていたが、飼育ケースを持ちたい子どもがいたので落とさないようにして一緒に持つ。
- ・自分で持って見たいという子もいて、順番に手渡す。
- ・自分も持ちたいと順番が待ちきれずに取り合いになりそうになる。
- ・よく見えるようにふたを開けて、テーブルの上にカブトムシを出す。
- ・子ども達は喜んではいないが少し驚いてテーブルの周りから離れる。
- ・動きがゆっくりで、激しく動かないことに安心したのか徐々にテーブルの周りに戻ってくる。
- ・少し動くと驚いたように歓声を上げ、後退りしたり近づいたりを繰り返していた。
- ・怖がりながらも近づいて手を出して触ろうとする子どもがいる。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

- ・子どもたちは、カブトムシの存在や動きをじっと見つめている。
- ・顔を近づけてのぞき込んだりしている。
- ・虫が好きな子どもは、自分だけが見たい気持ちから自分で飼育ケースを持ち歩きたい気持ちになっている。
- ・カブトムシに出会った子ども達は「土の中にいる」「でてきた」「エサを食べる?」「ツノがある」など、形や動きに気づいてつぶやいたり、保育士に話したりしていた。
- ・ケースを覗き込みながら、カブトムシが「動く、止まる」「土の上、エサの近く」など動くことが嬉しいようで、その様子に気づいている。
- ・「うごいた!」「ツノながいね」「こっちきたよ」など、動きや形をとらえた驚きや発見のつぶやきがあった。
- ・「なにたべてるの?」「さわってみたい」「ねてるのかな?」など、状態を想像しながら、カブトムシの気持ちを考えたりしていた。
- ・ケースから出すと、怖いのか嬉しいのか歓声を上げて、間近で見ている子どもも後ずさりした。
- ・側に行ってみられる子どももいたが、まだ元気な成虫だったのでよく動き、触れること難しかった様子。
- ・飛んで逃げてしまうことも考えられたので、あまり長い時間ケースから出せなかったが、ケースにしまう時には残念そうにする子どもも複数いた。
- ・ケースを子どもからよく見えるロッカーの上に置いておくと、その周りでケースの中のカブトムシをしばらく眺めていた。
- ・様子の変化があってそのことに子どもが気付くと、「うごいた」「たべてる」などとつぶやいたり、その様子を保育士に知らせる子どもがいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・「もっと近くで見たい」「さわってみたい」という気持ちで近づき、確かめようとする探索意欲が育っている。
- ・「何を食べるのか」「どこで寝るのか」「大きくなるのか」など、生きていくこと動いていることが分かって興味を持ったようだった。
- ・あまり見たことがない子が多かったのか、関心を持ち、虫を怖がる子どももよく見ていた。今後の観察や世話を通してもっと興味を持つことにつながっていくのではないかな。
- ・どんなものを食べるのかなど一緒に図鑑を見たり、調べたりして図鑑や虫の絵本にも興味をもつことにつながると思う。
- ・スイカの上にいることや、土・木片が入っていることに気づいて、「カブトムシはこういうところで暮らす」「エサを食べる」といったことを知ったようだった。すいかが入っていない状態で「何を食べるか」を考えても良かったのではないかな。
- ・ケースから出して、触れられるようにした後は、触れる子どもはまだいなかった。少しずつ慣れていくのではないかな。
- ・あまり長くケースから出すと飛んで逃げてしまうことが考えられたため、あまり長い時間出しておけなかったが、飛ぶ様子も見せてあげたら子ども達はどんな反応を示したのだろうか考える。そのことがまた新たな探究活動を生むきっかけになるのではないかなと感じた。やがて元気がなくなってきたり、しんでしまったりすることも子どもに気づきになるのではないかな。
- ・今後も子どもと一緒に飼育することを通して、カブトムシについての関心や興味を深めていき、子どもの気づきや探究心を育む取り組みにしていきたい。